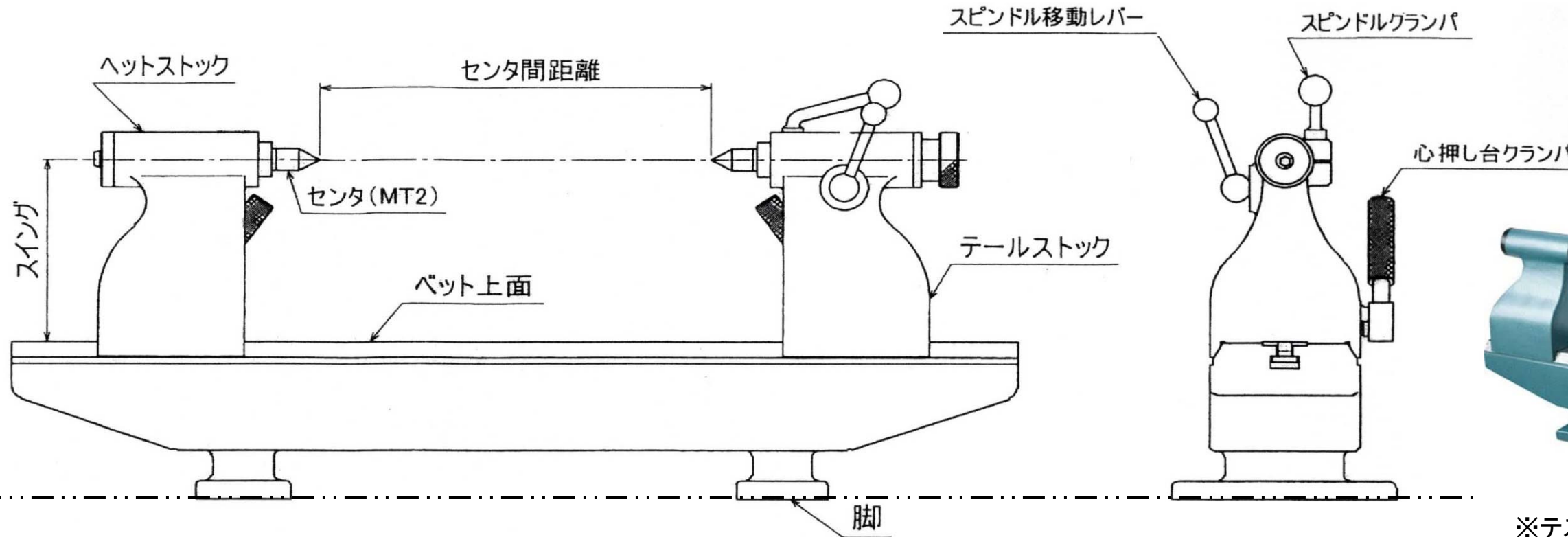


偏心検査器

商品コード	台長さ×幅×高さ(mm)	センター距離(mm)	センター高さ(mm)	センター間平行度(mm)	重量(kg)
No.1	750×115×130	400	150	0.005	48



※テストバー No.1 φ30×400L(有効長380)

(1)概要説明

偏心検査器とは主に、リーマーエンドミル及びテストバー等のセンター軸芯に対する外周の振れ(偏心)を測定することを主目的として用いられる検査器具です。

(2)主要部の名称

偏心検査器の主要部の名称は図による。

(3)使用方法

- 被測定物の長さより、やや狭めにセンター間距離を決め、心押し台クランプによりテールストック及びヘッドストックを完全に固定する。
- スピンドルクランプの緩んでいることを確認し、スピンドル移動レバーでスピンドルを引き込んでセンター間を広げ、両センター間に被測定物を入れ、スピンドル移動レバーをゆっくり放して被測定物を把握する。
被測定物の重量によっては、スピンドルを更に加圧して、確実に把握させる必要がある場合もあります。
- スピンドルクランプでスピンドルを固定する。確実に固定しないと正確な測定値が得られない場合があります。
- 付属のダイヤルスタンドのインジケータを取り付け、ベット上面にそのスタンドを載せ、被測定物の上面にインジケータの測定子が僅かに接触するようにインジケータの高さを調節します。
- 被測定物のセンター軸芯に対する円筒度を測定する場合は、被測定物の長さの最低3箇所以上、外周円筒面を4箇所(90°ピッチ)以上測定して、その各々総合の数値より算出する。
また、1箇所の偏心測定の場合はダイヤルスタンドをベット上面に固定して、被測定物をゆっくり回転させて、その最高点及び最低点の数値の差より算出する。

(4)注意

- 本製品の脚底面とベット上面の平行は精度保証の範囲ではありません。
- 剛性等、精度及び強度には十分配慮して設計していますが、高精度の測定結果を望む場合は、センター間距離及びスイング共、十分余裕のある測定をすることが望ましい。
- 本製品はセンター軸芯に対する外周の振れ(偏心)を測定する測定器であり、被測定物を回転させつつ、1点で測定した時の数値は必ずしも真円度と成り得ないことがあります。
- ベット上面・テールストック及びヘッドストックの各摺動面は精密な仕上げを施してありますので、使用中・使用後のキズ・錆等の管理には十分注意してください。
- テールストック及びヘッドストックのセンターは交換できる構造に成っていますが、センター自身の振れ及びセンターとスピンドルの当たりによって、精度が変化することがありますので、交換が必要な場合はメーカーに依頼することをお勧めします。
- 被測定物のセンター穴に異物及びカエリ等が無いことを確認して下さい。